

第 9 章

ラオスの経済地理統計データ

ケオラ スックニラン

キーワード：

ラオス 経済 地理 データ

はじめに

ラオス人民民主共和国が 1975 年に成立してから、統計当局が実施した主要な調査、センサスが表 1 に示されている。ラオスにおける経済地理統計を整備する際には、必要不可欠な一次資料である。

表 1 1975 年以降実施された主な社会経済調査

出版年	主な調査	主要支援機関 [†]
1986	Population of Lao PDR (01-03-1985)	NSC, UNFPA
1986	Survey of Births and Deaths	NSC, UNFPA
1992	Population of the Lao PDR. (Population Census in 1985)	MEPF, UNFPA
1995	Lao Expenditure and Consumption Survey and Social Indicator Survey 1992-1993 Sample size: 19,574 persons (2,937 households in 147 villages)	NSC, SIDA, UNDP
1997	Results from the Population Census 1995	NSC, SIDA
1997	Results from the Population Census 1995 (18 versions for 18 provinces)	NSC, SIDA
1999	Lao Expenditure and Consumption Survey 1997/98 (LECS 2) Sample size: 57,624 persons (8,882 households in 450 villages)	NSC, SIDA
2000	Results of Agricultural Surveys 1998/99 (18 versions for 18 provinces)	MAF, SIDA
2002	Business Tendency Survey 2001 Sample size: 611 enterprises	NSC, SIDA, OECD
2003	Business Establishment Survey 2002 Sample size: 1,589 enterprises	NSC, SIDA
2004	Lao Expenditure and Consumption Survey 2002/03 LECS 3 Sample size: 49,970 persons (8,092 households in 540 villages)	NSC, SIDA

2006	Business Establishment Survey 2004 Sample size: 1,629 enterprises	NSC
2006	Result from the Population and Housing Census 2005 (national report)	NSC, SIDA
2007	Result from the Population and Housing Census 2005 (18 provincial reports)	NSC, SIDA
2007	Report on the Economic Census, 2006 Volume 1 Sample: 126,913 enterprises	NSC, SIDA
2009	Lao Expenditure and Consumption Survey 2007/08 (LECS 4) Sample size: 57,624 persons (8,882 households in 450 villages)	NSC, SIDA

(出所) 著者作成。

[†]NSC = National Statistical Center. SIDA = Swedish International Development Agency. MAF = Ministry of Agriculture and Forestry.

1. 地理的区分

2005 年度以降のラオスにおける行政区画は、第 1 レベルで 17 (16 県 + 1 首都) に分割される。これらは、第 2 レベルである郡に分割されるが、その数は 1985 年の 112 から 2009 年には 143 に大きく増加している (表 2)。GSM (Geographical Simulation Model) では、地域統計の有無、広さなど他国との整合性をはかるため、ラオスについては第 1 レベルを使用している。また、第 1 世代のモデルでは、2005 年時点のデータを使用したため、サイソムブーン特別区 (Xaysomboon SR) は含まれていない。

表 2 ラオスの行政区画数一覧 (1985～2009 年)

コード	県	県	郡					
	国家統計局	GSM	1985	1990	1995	2000	2005	2009
01	Vientiane Capital	Vientiane capital	7	7	9	9	9	9
02	Phongsaly	Phongsali	6	6	7	7	7	7
03	Luangnamtha	Louang-Namtha	5	5	5	5	5	5
04	Oudomxay	Oudomxai	9	11	7	7	7	7
05	Bokeo	Bokeo	3	3	5	6	5	5
06	Luangprabang	Louangphabang	8	10	11	11	11	12
07	Huaphanh	Houaphan	6	6	6	8	8	8
08	Xayabury	Xaignabouli	7	5	9	10	10	11
09	Xiengkhuang	Xiangkhouang	6	6	7	7	8	8
10	Vientiane	Vientiane	9	9	7	10	12	13
11	Borikhamxay	Bolikhamxai	6	6	6	6	6	7
12	Khammuane	Khammouan	6	6	9	9	9	9
13	Savannakhet	Savannakhet	9	11	13	16	15	15
14	Saravane	Salavan	8	8	8	8	8	8
15	Sekong	Xekong	3	3	4	4	4	4

16	Champasack	Champasak	10	10	10	10	10	10
17	Attapeu	Attapu	4	5	5	5	5	5
18	Xaysomboon SR		-	-	5	5	-	-
合計	18	17	112	117	133	143	139	143

(出所) National Statistical Center のホームページ及び最新版の GSM。

GSM における地名のローマ字表記は、FAO が提供するシェープ・ファイルに基づいているから、国家統計局の表記とは異なる。国家統計局が公表する資料を含め、ラオスでは確立したローマ字表記がないため、現時点のデータセットでは FAO が提供するシェープ・ファイルの表記を優先している。

2. 産業分類

ラオスは、独自の産業分類を定めておらず、原則 ISIC (International Standard Industrial Classification) の分類に従うことになっている。しかしながら、国家統計局による ISIC 一桁分類とされる表 3 の内容は、国連などによる分類とも完全に一致しない。ラオスの産業構造に従い、調整されたものと推測できる。事業所調査の結果など、国家統計局の出版物における分類は、表 3 かそれに近い分類となる。

表 3 ラオスの主な産業分類

コード	ISIC 一桁分類
A	Agriculture, forestry and fishing
B	Mining and quarrying
C	Manufacturing
D	Electricity, gas, steam and air conditioning supply
E	Water supply; sewerage, waste management & remediation
F	Construction
G	Wholesale and retail trade; repair of motor vehicles & motorcycles
H	Transportation and storage
I	Accommodation and Food service
J	Information and communication
K	Financial and insurance
L	Real estate activities
M	Professional, scientific and technical
N	Administrative and support service
P	Education
Q	Human health and social work
R	Arts, entertainment and recreation
S	Other service activities

(出所) National Statistical Center。

ISIC 一桁レベルより細かいデータについては、国家統計局、商工省と同機関付属の貿易経済研究所、国家経済研究所などの行政機関で、個別に購入または共同研究を通じて入手することが可能である。詳しくは、「5.経済地理データ作成の手順と課題」で述べることにする。

3. 人口センサス

ラオスでは”Population and Housing Census”が10年ごとに実施されている。1975年に成立した現体制下では、1985年に始まり、1995年と2005年に実施された。センサスの実施された翌年に、全国及び県別の集計結果が出版される。集計結果を掲載したこれらの出版物には、郡別の人口に加え、人口移動、世帯特性、教育、経済活動、出生・死亡率、住宅特性などがある。特に住宅特性では、電気、水道、道路、学校、病院などインフラへのアクセス状況を知ることができる。さらに、国家統計局に依頼すれば、村レベルの集計を購入することも可能である。

表4 ラオスの人口センサス（単位：1000人）

ド コ 県		面積 Km ²	1985	1995	2005
01	Vientiane Capital	3,920	381	532	698
02	Phongsaly	16,270	124	153	166
03	Luangnamtha	9,325	98	115	145
04	Oudomxay	15,370	189	211	265
05	Bokeo	6,196	56	115	145
06	Luangprabang	16,875	298	367	407
07	Huaphanh	16,500	212	247	281
08	Xayabury	16,389	226	293	339
09	Xiengkhuang	15,880	163	201	230
10	Vientiane	18,526	267	287	389
11	Borikhamxay	14,863	123	165	225
12	Khammuane	16,315	215	275	337
13	Savannakhet	21,774	549	675	826
14	Saravane	10,691	189	258	324
15	Sekong	7,665	51	64	85
16	Champasack	15,415	407	503	607
17	Attapeu	10,320	70	88	112
18	Xaysomboon SR	4,506	-	54	39
合計		236,800	3,618	4,605	5,622

（出所）National Statistical Center のホームページ。

4. 地域別・産業別 GDP 入手可能性

4.1 国レベル

ラオスの GDP は、国レベルでは、以下のような産業部門別で発表されている。工業は 3 部門にまとめられている。そのため、GSM で用いられる 5 部門に分割するためには、企業統計などを使う必要がある。ラオスにおける付加価値計算は積み上げ集計が基本なため、国家統計局であれば、部門別集計も理論的には可能と考えられるが、作業量と煩雑さから依頼は容易ではない。とはいえ、産業連関表作成を進めている国家統計局では産業別統計の整理が進展し始めているとも考えられるため、製造業の部門別再集計依頼は、今後の検討課題である。

表5 ラオスの全国レベルでの産業別 GDP の分類

農業
Planting, livestock
Fishing
Forestry
工業
Mining and quarrying
Manufacturing
Electricity and water
Construction
サービス業
Wholesale and retail trade, repairs
Hotels and restaurants
Transport, storage, post and
Communication
Financial intermediation
Real estate and business services
Community, social and personal services
Private households with employed persons
Producers of government services
Financial intermediation services (indirectly measured)
(出所) National Statistical Center のホームページ。

4.2. 県レベル

GDP 統計作成を行っている国家統計局は、県別統計を公式には公表していない。しかし、全国レベルの GDP 計算には、各県から毎年報告される統計が使われている。各県は少なくとも毎年度に 2 回、社会・経済計画実施状況を計画投資省の計画課に報告する。これら

の報告書には、3 部門（農業、工業、サービス業）の付加価値が含まれる他、キャパシティーの高い県からは、部門別の生産高も報告される。これらの報告書は、販売されないものの資料そのものが残存している場合、面会・インタビューなどを通じてコピー、または購入することが可能である。2000 年代に入ってから、簡単に製本された資料の存在が確認されている。

5. 経済地理データ作成の手順と課題

本研究会のデータセットでは、ラオスは県レベルでのデータを作成する。県別人口については、当局が公表する統計をそのまま活用できる。人口センサスが行われない年においても、国家統計局が各県の報告、直近に実施されたセンサスと一定の仮定の下で県別の人口を推計し、年間統計報告書で公表する。

表 6 ラオスの企業統計

項目	内容
No.	番号
Code	4 桁 ISIC
Register No.	登録番号
Name of firm	企業名
Activity	活動
Name of owner	経営者名
Nationality	国籍
Village	所在村
District	所在郡
Province	所在県
Ownership	国籍別持率
Labor	従業員数
	馬力に換算した設備
Horse labor	備
USD	ドル換算の資本
KIP	キープ換算の資本
Telephone	電話番号
Notice	備考

（出所）国家経済研究所提供のデータに基づく。

2005 年のデータについて GSM で用いるために独自で計算を行ったのは、県別・7 部門別の人口及び総付加価値である。ここで活用したのは、企業統計の個標である。国家統計局、商工省や国家経済研究所からは、購入または共同研究を通じて、企業統計を入手することが可能である。企業統計の個標には多くの場合、表 5 のような項目に関するデータが

ある。本研究会のラオス経済地理統計整備で行った計算手順は、次の通りである。

- ① 国家統計局の年間報告書から全国の GDP と各県人口を得る。
- ② 県の年間経済・社会計画実施報告書から各県の GDP の割合を計算し、①の全国 GDP を按分することで、各県 GDP を計算する。
- ③ 県の年間経済・社会計画実施報告書に掲載される割合で②の各県 GDP を 3 部門県別 GDP（農業、工業、サービス業）に分割する。農業とサービス業の県別 GDP は、ここで確定する。
- ④ 県別人口、農業とサービス業 GDP の割合から県別農業とサービス業の人口を算出する。残りが県別工業人口となる。
- ⑤ 企業統計の個標から GSM で用いる製造業 5 部門別に沿った労働力の集計を行い、その割合を算出する。
- ⑥ ③で得られた県別工業付加価値を⑤の割合で、各県製造業 5 部門 GDP を算出する。
- ⑦ ④で得られた県別工業人口を⑤の割合で、各県製造業 5 部門人口を算出する。

以上各号の下線部が GSM で使われるラオスの経済地理統計となる。ここで明らかなのは、県別 GDP と人口以外のデータは、改善の余地が大きく残されている。しかし GSM での使用を想定していない入手可能な加工、未加工データを元に計算する場合、工夫や改善には限界があることも明らかである。当局がどのような個標データを保有し、かつ、どのような形で集計されているか全体像を把握することが難しいである。そのため、考えられる解決方法の一つは、生データを保有する国家統計局と協議しながら、GSM が定めた仕様に基づく再集計を依頼することであろう。したがって、継続的にラオスの経済地理統計を整備し、空間経済学モデル分析を行うには、統計当局との協力関係を構築することが望ましい。

6. 関連統計ソース

ラオス商工省 (<http://www.moic.gov.la/default.asp>, 2012 年 2 月 29 日アクセス)

ラオス統計局 (<http://www.nsc.gov.la/>, 2012 年 2 月 29 日アクセス)

Statistical Yearbook 各年版, Statistics Bureau, Ministry of Planning and Investment.

その他統計局、商工省、国家経済研究所から購入または共同研究で入手可能な資料である。